



南関中スピリッツ

「自分の限界に挑戦！アクティブ南関中」

R4南関中学校学校便り

自主 創造 友愛

NO. 24 (文責 永杉尚久)

応援メッセージ 「挑戦することの意味！」

南関中学校のみなさんに伝えたいことは、「自分の限界に向かって挑戦することに意味がある。」ということです。

今から30年前に、先生は卒業を前にした子どもたちと1日で60kmを歩くという挑戦をしたことがありました。40kmを過ぎた頃から雨が降り、疲れと体が冷え切った極限の状態になりました。最初1km12分ぐらいのペースが40km過ぎからは20分を越すペースに落ちていました。50km過ぎからは、ここが限界かなという空気がみんなの中に漂い始めていました。そんな時、在校生の子どもたちが歩いて応援に来てくれました。みんな元気を取り戻し、全員がゴールできました。涙を流してみんなで頑張りを喜びました。

私が、この話をするのは、結果がよかったからではありません。この挑戦で学んだことがたくさんあったからです。3つ紹介します。

1つ目、「もうだめだ」という自分と、「ここまで来たのだから、あと少し頑張ろう。」という自分がいました。限界に挑戦することで今の本当の自分を見つめることができました。

2つ目、失敗を恐れてやらなければ、何も残らない。ということです。60kmチャレンジを提案したときに、「危険だ。」「子どもたちには無理だ。」という意見がありました。その意見につぶされていたらできなかったでしょう。一人一人説得して協力者になってもらいました。チャレンジが決まってからは準備を続けました。3ヶ月間毎朝クロスカントリーを子どもたちと行いました。本当は練習の方がきつかったかもしれません。60km歩けなくても、この準備が価値あるものだと思います。挑戦しなければこの経験はありませんでした。

3つ目は、感謝の心を持ち、人に優しくなれることです。先ほどの在校生の応援はとても嬉しかったし、応援がなければゴールはあきらめていたかもしれません。また、サポートしていただいた保護者や学校の先生方のおかげで達成できたことをみんな感じていました。感謝の心を持ち、素直に「ありがとう」と言える姿がありました。そしてもう一つ、限界に挑戦する事で、きついときにお互いに優しい言葉をかけ合えるようになりました。これは、挑戦後も続いています。

以上、私の経験からみなさんに伝えたいことをお話ししました。目標に向かって挑戦を続けてください。

健康委員会の依頼で、生徒のみなさんに応援メッセージを届けることになりました。それを紹介します。

今日の論語

子曰わく、「天を怨みず、人を尤^{とが}めず、下^か学^{がく}して上^{じょう}達^{たつ}す。」と。

先生は言われた、

「天をうらまない、他人のせいにしてない。身近なことからこつこつと努力すれば、上手くできるよになる。」と。

やりたいことが上手くできるようになるまでには、かなり時間がかかるものだと思います。失敗や挫折も経験することとあけていく。根気のいる我慢の必要なことですが、あきらめず努力できることは才能の一つであると思います。そして、この能力は気持ちの持ちようであれにでも持てる力だと思えます。

